



## 新たな体験で成長 就活で留学の強みを実感



人文学部 社会科学科  
浜田すみれ

台湾の静宜大学に留学しました。半学期の短い期間でしたが、全身で感じて、楽しんで学んできたことを紹介します。

静宜大学は茨城大学より学生が多く、キャンパスのとても広い大学です。全体が坂で、学内を散歩するだけで運動した気持ちになります。

受けた講義について紹介しましょう。午前中、2 時間中国語の授業を受け、午後は他の講義を履修しました。

中国語の授業は、さまざまな国から来た学生や社会人と一緒でした。リトアニアやケニアなどこれまで出会ったことのないような国々からの留学生と触れ合い、とても良い経験が出来ました。

驚いたことは、授業中に食事を取ることです。同じクラスの米国人は、ほぼ



茶葉蛋

台湾のコンビニで絶対に売っているゆで卵。色と臭いのせいで食べる勇気が出せなかったため、味がわかりません。

毎日コカ・コーラゼロを飲み、茶葉蛋を食べていました。私も同じグループの台湾の友人からはサツマイモをもらい、食べながら受けたこともありました。

授業中の飲み物禁止が少なくない日本へ来る留学生は苦労することになると思いました。

学内にお気に入りの場所がありました。「任垣樓の橋」と呼ばれる、キャンパスの中の大きな 2 つの建物をつなぐ橋です。おそらく学内で一番眺めがいいと思われま

す。

台湾は 11 月くらいまで夜も寒くないので、夜によくそこへ訪れていました。そこからの眺めを見るのも好きでしたが、そこでの出会いも楽しみにしていました。

その橋で友達と話していたところ、目の前に、



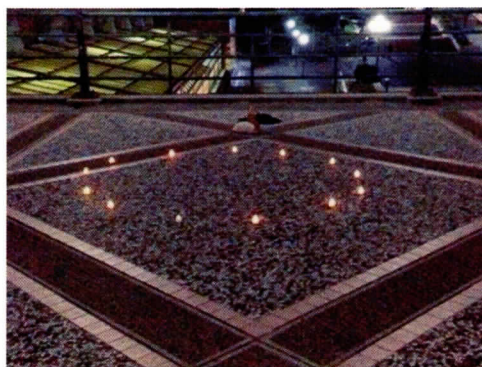
サツマイモを貰ったとき (H26. 12. 31)  
彼女たちはサツマイモに名前を付けていました。たぶん私ののは「チビ」



キャンドルを並べる男子学生が突然、現れました。とても気になったので、何をやっているのか尋ねてみると、「これからロマンチックなことが起こるよ！」との思わぬ返事が返ってきました。

スペイン語学科のバスケットボール部に所属する学生らで、今日はその1人が女子学生に何かを告白するとのことでした。

告白現場を目撃できることに興奮しつつ、男子学生らと会話をしばし楽しみました。そこではじめて、これこそが台湾の告白スタイルだと知ったのです。キャンドルで囲んだ円形のスペースの中で男性が告白し、相手からOKがもらえれば、2人が同じキャンドルで囲われたサークルの中一緒にいて告白成功・カップル誕生というわけです。



そんなやりとりをしていると、どこからともなく女子学生が現れました。待ち構えていた男子学生は、すばやく移動し、女子学生に向かっていきなり歌を歌い始め、ついには、「我喜歡你（お前が好きだ）！！！！」と叫びました。遠巻きに見ていた学生たちから、男子学生を鼓舞するエールがそれと同時にあがり、その場は、一気に盛り上がりました。

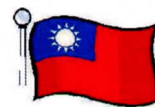
ところがです。告白を受けた女子学生は、男子学生の呼びかけにほとんど応えません。近寄って何かを告げた後に、キャンドルで作った円の中には入らずそのまま帰ってしまいました。

こういう状態のことを台湾では、文字通り「告白失敗」と形容するようです。ほんの数分前までは皆が、その場のほんわかしていたムードをあんなにも楽しんでたのに、女子学生が姿を消すと、一転。切ない雰囲気あたり一面に漂い、多くの言葉を誰もが交わすことなくその場を三々五々立ち去りました。この体験は、留学中で一番、私の心に残る思い出になりました。



中国語の学習のための留学でしたが、それ以上に、台湾の多くの文化を知り、さまざまな国からの学生に出会えたことが大きな収穫と経験になりました。これとは別に、帰国後は、日本の清潔さや便利さに感動し、そのすばらしさも実感できました。異文化を味わいたい方はもちろん、日本が大好きな方にも留学はおすすめです！

半年間だけでしたが本当に貴重な日々でした。就活中の今、留学で多くのことを経験できたことは自身の強みになっていると実感しています。どんな経験も無駄ではありません。新たな経験は、きっと自分への成長に繋がると信じています。



(終)